

YS1-3

久留米大学小児科におけるICTを取り入れた小児保健指導の試み

石井 隆大

久留米大学医学部医学科小児科学教室

2019年末から2020年初頭にかけて本邦での流行が始まり社会構造を大きく変えた新型コロナウイルスの影響は大きく、災害レベルの影響となった。禍（わざわい）という言葉が後置されたコロナ禍という言葉も生まれる結果となった。IT (information technology) という言葉が生まれてから20年以上経ち、小児保健を担う若手はIT全盛期にその親和性を獲得し、現在の小児児童にとって、ITが普及した環境は当然の環境となっていると言える。その中で、ICT (Information and Communication Technology) を教育や医療、保健指導に取り入れる動きは年々強まっており、皮肉なことにコロナ禍で加速したと実感している。久留米大学小児科では、3年ほど前からICTを取り入れた試みを計画し、様々な形で実施してきた。試験運用中の睡眠障害介入アプリ、CBT (Cognitive-Behavioral Therapy) アプリを併用した思春期児童に対しての保健指導（思春期健診）の効果について、久留米高専と共同開発した保健指導の一環として能動的な行動を促す無料アプリを紹介させていただき、小児保健指導におけるICTの可能性・課題について述べさせていただく。